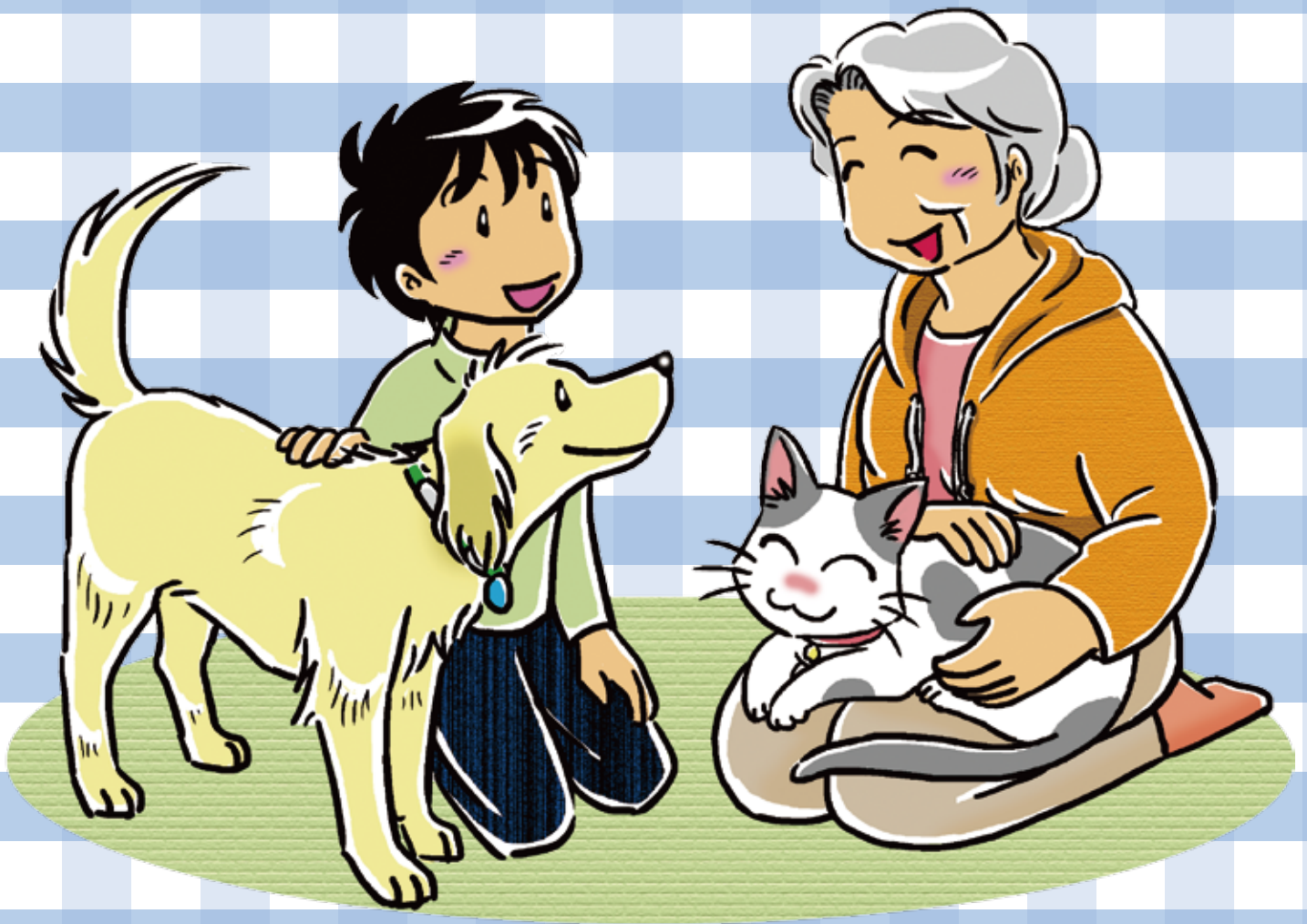


見つめ直して 人と動物の絆



すでに飼っている人も
これから飼う人も
大切な絆が切れないように・・・



環境省
Ministry of the Environment

人と動物の絆——ずっと一緒にいるために

ペットは私たちの生活に潤いと安らぎをもたらしてくれます。ペットの存在が、家庭内や隣人との会話を増やして人間関係を円滑にしたり、子供たちに自分より弱い者に対するいたわりの心や、命を預かる責任の重さと命の大切さを教えてくれます。また時には、ペットの存在が生きていく力や明日への希望になることもあります。人と動物は強い絆を結ぶことができるのです。

しかし、その絆はただペットを飼えば生じるものではありません。動物との絆は、毎日きちんと世話をし、ペットの命を守り、ペットの気持ちになって考え、一緒に幸せになろうと努力し実行していく過程で結ばれ、少しずつ太く強くなっていくものです。

強い絆で結ばれた人とペットは、思いもかけない事態に襲われた時も乗り越えていけるでしょう。どんな時もずっと一緒にいられるために、あなたとペットとの間に強い絆を結びましょう。



強い絆で結ばれた人と動物は…

実例1

行方不明になった犬とマイクロチップのおかげで再会



不注意で犬を迷子にさせてしまった A さんは、保健所や動物保護センターに収容されていないか毎日のように問い合わせをし、貼り紙をするなど必死に探していました。

ある日、放れている犬がいるとの通報で自治体の動物保護センターが出勤、保護した犬にマイクロチップの反応がありました。AIPO* に登録された情報からすぐに A さんに連絡がとれ、犬は無事に A さんの元に戻ることができました。

*AIPO: 動物 ID 普及推進会議。マイクロチップによる犬、猫などの動物個体識別の普及推進とデータ管理を行っている団体で、データ管理は、(公社) 日本獣医師会が担当しています。

実例2

大震災に遭い何度も訪れた危機を強い絆で乗り越える



東北地方の海沿いでドッグカフェとトリミングサロンを営んでいた B さんは、今まで経験したことのない激しい揺れの後、すぐに避難を開始しました。店舗で預かっていた大型犬1頭と小型犬2頭を先に車に乗せ、飼っていた大型犬4頭と小型犬10頭、家族と店の従業員と、津波の迫る中、2台の車で高台を目指しました。中学生の息子の腕の中には、「大事な物を一つだけ持つように」と言われて迷わず抱きかかえた飼猫がいました。

津波から逃げ切り、その晩は余震が続く中、預かりの犬と自分の犬猫たちと避難所の車の中で過ごしました。救援物資のペットフードが届くまでは、万一来て備えて車に備蓄していたペットフードでしのぐことができました。その後、犬と猫を連れて避難先を5回も変わることになりました。

家族や従業員、預かっていた動物や飼っていた動物はみんな助かりましたが、海沿いにあった店舗は土台だけを残して流失しました。将来のことを考えるとくじけそうにもなりましたが、家族と犬たちのためにも頑張ろうと自分を奮い立たせ、今は内陸部に新たな店舗を持ち、生活の再建を始めています。

せっかく結ばれた絆なのに…

ペットは飼い主との絆をいつも求めています。一度、人と結ばれた絆を動物から一方的に切ることはありません。ペットとの絆が切れるとき、それはほとんどの場合、人の側から断ち切られるものなのです。

実例3

店の前で待たせていた犬を盗まれてしまった



「家族だからどこに行くにも一緒」と犬を連れて買い物に行き、スーパーマーケットの柵につないでおいた C さん。買い物を済ませて外に出てみると、飼い犬がいません。あちこち探し店員にも聞いてみたところ、「男の人が連れて行った」との目撃情報がありました。犬が嫌がっているようにも見えなかったので、飼い主だと思ったそうです。警察にも保健所にも届け、スーパー付近にはポスターを貼って探していますが、未だに見つかっていません。

* 自治体によっては公共の場所に犬をつないでその場を離れる行為は条例違反になります。

迷子で切れた絆

全国の自治体の保健所や動物保護センターには、迷ったり、ケガをした犬や猫が保護収容されています。しかし、身元を示す名札や鑑札等がついていないために飼い主に連絡することができず、また飼い主からの問い合わせもないために、多くの犬や猫が家に帰れずにいます。新しい飼い主に譲渡されるケースも増えてはきていますが、まだその数は少なく、その多くがやむを得ず殺処分になっているのが現状です。ペットに身元を示す名札や鑑札をつけるなどの対策を怠ると、ペットとの絆を飼い主自らが切ってしまうことになりかねません。



実例4

マイクロチップが入っていたのに飼い主と連絡が取れなかった猫



交通事故に遭い、瀕死の状態で動物保護センターに保護された猫。マイクロチップが入っていましたが、登録された情報では飼い主と連絡が取れませんでした。幸い公開した収容動物情報を見た飼い主がセンターに問い合わせをしてきて再会することができました。飼い主は転居のときに登録した情報の書き換えを行っていませんでした。

☆マイクロチップを入れたら情報の登録・書き換えを忘れずに！

保護された迷子の動物にマイクロチップが入っていたが、飼い主の情報が AIPO* に登録されていなかったため、連絡ができない例が頻発しています。ペットショップ等から入手した動物がマイクロチップ装着済であっても、飼い主が必ず自分の情報を登録してください。転居したり、飼い主が変わった時も登録の書き換えを忘れずに行ってください。

*AIPO 事務局（（公社）日本獣医師会内マイクロチップ専用窓口）TEL：03-3475-1695 FAX：03-3475-1697

絆を結ぶ——飼い主の心得

ペットと暮らしていくことは、ペットと自分、そして地域社会ともいい関係を作っていくことでもあります。ペットを野放しで好き勝手にさせたり、逆に思い通りにしようしたり、一方的に癒しを求めることではありません。

1 あなたのペットの正しい知識を得る

ペットの種類に合った飼い方や生態、本能や習性について、獣医師などの専門家に相談したり、専門家の書いた本などを読みましょう。

飼い主が守らなければならないことについて、どんな法令があるか知っておきましょう。例えば、犬の飼い主には3つの義務があります。

- ①住まいの市区町村に飼い犬を登録すること
- ②飼い犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせること
- ③飼い犬に鑑札と狂犬病予防注射済票をつけること



2 健康管理と繁殖制限措置

正しい知識に基づいて、ペットの飼養環境を整え、適切な食餌を与えましょう。毎日よく観察し、健康状態に気を配り、普段と違うときはすぐに獣医師に相談しましょう。ワクチン接種など病気の予防措置も大切です。

繁殖を予定していないのなら、繁殖制限措置を行いましょう。犬や猫などの場合、望まない繁殖を防ぐ確実な方法は不妊去勢手術です。手術のリスクはありますが病気のリスクや性的ストレスが減ります。災害時に避難先で過ごす時や、ペットを誰かに預けたりする場合にも、不妊去勢手術はペットの性的なストレスを軽くし、世話をする側の手間も軽減します。

3 必要なしつけ

しつけをすることは、ペットとのコミュニケーションにもなり、絆を強くします。基本的なしつけができているペットは、普段から周りの人にも愛されるだけでなく、災害時に避難先でも受け入れられやすく、ペット自身のストレスも軽減することができます。

上手なしつけのポイントは、ペットの習性や行動特性を勉強し、ペットが困った行動をする時にはその原因を見極め、いい行動をした時には、たくさんほめて、人もペットも楽しく学んでいくことが大切です。

犬の場合



- ★「待て」、「お座り」、「伏せ」、「おいで」などの基本的なしつけ
- ★ケージに入ることを嫌がらず落ち着いていられる
- ★不必要に吠えない
- ★人や他の動物を怖がったり攻撃的にならない
- ★決められた場所での排泄

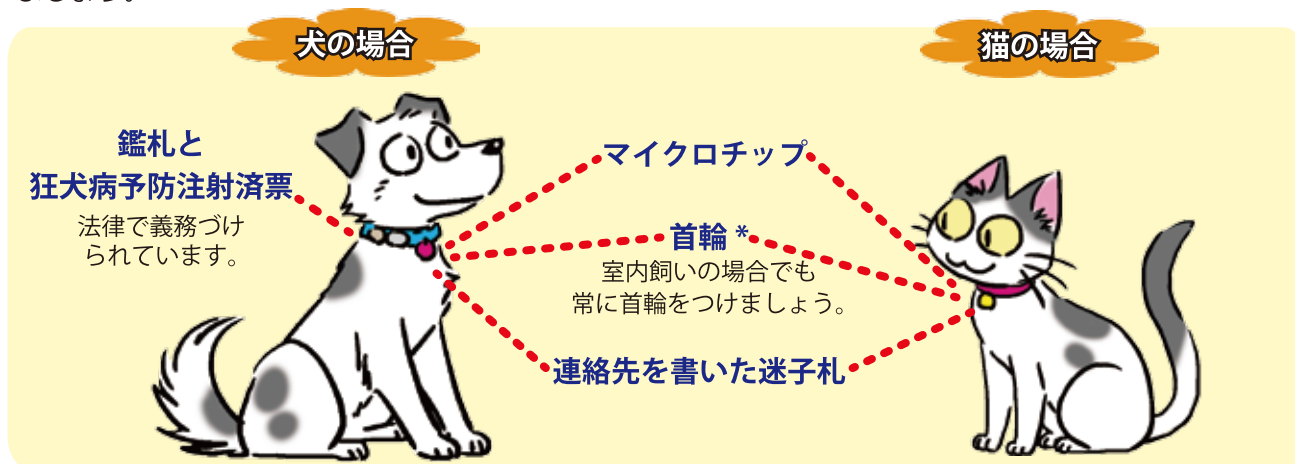
猫の場合



- ★ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらず落ち着いていられる
- ★人や他の動物を怖がらない
- ★猫用トイレでの排泄

4 迷子札と所有者明示

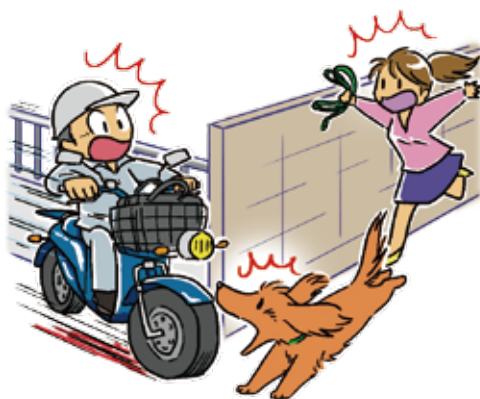
突然の災害はもちろん、普段の生活でも思いがけないアクシデントで飼い主と離れ離れになるかもしれません。ペットが迷子になりどこかで保護されたとき、すぐに飼い主がわかるように身元を示すものをつけましょう。外から見えて誰でもすぐわかる迷子札を首輪などにつけるとともに、首輪が取れてしまったときのために、半永久的に識別可能で確実な身元証明としてマイクロチップを入れるといった、二重の対策をとりましょう。



* 猫の首輪は引っかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用するといいいでしょう。

5 飼い主のマナーと地域社会への気配り

排泄物の放置、放し飼いによる迷惑、犬の散歩時にリードから放す（ノーリード）など、ペットが嫌われる理由のほとんどは飼い主のマナーが悪いことが原因です。排泄物の放置は周りの人にとって不快だけでなく、衛生上も問題があります。また、放し飼いやノーリードによるペットの飛び出しや咬みつки事故などで、人も動物もケガをする危険があります。これらの迷惑行為は、ペットの健康管理や安全を守ることを放棄することであり、飼い主自ら絆を断つ行為といえます。



6 ペットが老いたとき



私たちと同じようにペットも年をとります。老いやそれに伴いどんな問題が出てくるかは、個々のペットによって異なり、様々な症状が現れて介護が必要になることもあります。介護が必要なペットを抱えた飼い主は一人で抱え込みがちですが、周りの人や獣医師に相談して、飼い方の工夫をしたり、介護用具の情報交換をしたり、家族全員で協力するようにしましょう。

絆を切らないために——不測の事態に備える

人生は何が起こるかわかりません。ペットとの絆を切らないため、不測の事態に備えましょう。

そして、想定外の事態が発生しても、ペットとの絆を切らないという強い意志を持ち、一緒に幸せになれるよう最大限努力していきましょう。

😊 大地震などの緊急災害に備える

- ・普段から、迷子札、犬の鑑札と狂犬病予防注射済票、マイクロチップなどの身元表示をつけましょう！
- ・普段から、しつけと健康管理を行いましょう！
- ・不妊去勢手術を行いましょう！
- ・地域の防災計画などでペットの同行避難ができる避難所を確認しておきましょう（避難経路も確認）！
- ・緊急時にペットを預ける場所を近場と遠方など複数見つけておきましょう！
- ・ケージやフードなどペットのための備蓄品を用意しましょう！



😊 不慮の事故などに備える

- ・飼い主の突然の入院など、一時的に世話ができなくなったときペットを預ける場所を決めておきましょう！
- ・飼い主が死亡するなど、万一の場合に代わりに飼ってくれる人を見つけておきましょう！

😊 迷子で絆を切らせない

ペットがいなくなったら、迷子になった地域の保健所、動物保護センター、警察署などに速やかに届け出てください（迷子のペットを保護した場合もこれら機関に問い合わせましょう）。ペットの種類や健康状態、習性・性質を考慮して、連絡する地域を周辺に拡大して行きましょう。ポスターやちらしを作成して迷子になった場所の周辺に掲示や配布するのも効果的です。



☆ ペットが迷子になる主な原因とその対策

- ！ 雷や花火など
突然の大きな音に驚いて
走り去るケース



対策☞ 荒天や花火大会の時は
ペットを室内に入れる。大
きな音の出るイベントには
ペットを連れて行かない。

- ！ 門の隙間や
閉め忘れたドアから
外に出るケース



対策☞ 門扉やドアはきちんと
閉めることを習慣づける。

- ！ 移動中に車内から
飛び出したり、散歩の途中で
放れてしまうケース



対策☞ ペットを連れているとき
は、ケージに入れるか必ず
リードを付け目を離さない。
車の窓は大きく開けない。

新たな絆を結ぶ——ペットを迎える

ペットは私たち人間と同じように命ある存在です。ファッションや流行だからという安易な理由や「かわいい」「かわいそう」という気持ちだけでは生きものは飼えません。

また、進学、就職、転居、結婚、出産…人生には様々な転機があります。将来予測できる生活の変化があった時に、自分が最後まで責任を持って飼えるか、不測の事態に見舞われてもペットを守る努力を続けられるか、ペットとの絆を自ら断ち切ることにならないか、飼い始める前によく考えましょう。

飼う前に考えること

- ★ 1 住まいはペットが飼える住居ですか。転居の予定はありませんか？
- ★ 2 飼いたいペットはライフスタイルに合っていますか？
- ★ 3 同居の家族みんなが飼うことに賛成して協力できますか？
- ★ 4 家族の中に動物に対するアレルギーを持つ人はいませんか？
- ★ 5 毎日欠かさずペットの世話に時間と手間をかけられますか？
- ★ 6 あなたの体力で世話ができるペットですか？
- ★ 7 近隣に迷惑をかけないように配慮できますか？
- ★ 8 ペットの一生にかかる費用を考えましたか？
- ★ 9 生涯にわたる計画を立ててみましたか？
- ★ 10 災害時や不測の事態に見舞われた時の対策を考えていますか？



ペットの入手先

1) 自治体の動物保護施設や民間の動物愛護団体から



飼い主不明で保護されたり飼えなくなって引き取られたペットや、地震などの災害で飼い主を失ったペットを新しい飼い主に譲渡する事業を、自治体の動物保護センターや民間の動物愛護団体等が行っています。保護されたペットなので、生年月日や年齢、病歴など細かい情報は不明な場合がほとんどですが、体格や性格がある程度分かっている利点もあります。子犬や子猫から飼わないとなつかないということはなく、成犬や成猫でも愛情と時間があれば、新たな絆を結ぶことができます。

2) ブリーダーから



ブリーダーとは、動物の繁殖を行っている人のことです。飼養環境や親動物の体格や性格を見たり、飼い方のアドバイスを受けて判断することができます。自分の目で確認し、しっかりと説明を聞き、気になる点は質問するなどして、信頼できるブリーダーから入手するようにしましょう。

3) ペットショップから



かわいい盛りの動物が展示されているとつい欲しくなりがちですが、「目が合った！」など衝動的に決めるのではなく、冷静に判断しましょう。

複数の店舗を回って、店の雰囲気や動物の管理、衛生状態、スタッフの動物の知識やアドバイスなどを比較して、良いお店を探しましょう。

わたしとペットはこんな絆で結ばれています

特徴のある首輪で再会



大地震とその後の原発の事故で自宅は警戒区域に。飼い猫を探しに行くこともままならない中、日々だけが過ぎていきました。ある日、シェルターのホームページに公開された保護された猫の特徴に、見覚えのある首輪を見つけました。「もし迷子になっても必ず見つかってほしい」と以前から首輪に大きな鈴を2個つけていたのです。お蔭で4か月ぶりに再会することができました。もちろん今は迷子札もつけています。



二度と迷子にさせない



以前、飼い犬を迷子にさせてしまい、動物保護センターに保護されたのに、身元をしめすものを何もつけていなかったで連絡ができず、収容期限ぎりぎりの再会になってしまいました。二度とこんな気持ちを味わいたくなくて、今は鑑札と狂犬病予防注射済票はもちろん、迷子札とマイクロチップ、外出時には首輪と胴輪の両方にリードを着けています。ものが言えない動物がたとえ迷子になっても戻ってこれるように、身元表示するのは飼い主の愛情のあかしだと思っています。



住所をしゃべって戻ってきたインコ



真冬の寒い日、鳥かごを掃除していたときに隙間からセキセイインコを逃がしてしまいました。辺りを懸命に探しましたが見つかりませんでした。ところが、インコを拾った方がしゃべった住所と苗字を手掛かりに、飼い主を探し出してくれたのです。万一に備えて住所をしゃべれるように教えていたことと、拾った方のご好意で10日ぶりに無事再会することができました。



24年も一緒にいる大切な猫



我が家に猫が来たのは私が高校生の時でした。野良猫が生んだ子猫を残していなくなってしまったのです。ミルクをやり排泄させて懸命に世話をし、やんちゃで優しい猫に育ちました。それから24年、今でも帰宅すると必ず玄関まで迎えに来てくれたり、電話にニャーとおしゃべりしたりします。これまでいろいろありましたが、縁あって我が家の一員になってくれたことに感謝し、大切に世話をし、一日でも長生きさせたいです。



環境省

Ministry of the Environment

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

編集・デザイン：つしまみかこ

製作：株式会社オーエムシー

平成24年9月発行

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

〇お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ